

## 香川県社会福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会（第2回）会議録

### 1 日時

令和5年8月23日（水）13時30分～14時30分

### 2 場所

香川県社会福祉総合センター7階 特別会議室

### 3 出席者

（委員）

笥会長、安藤（照文）委員、日下委員、久米川委員、佐藤委員、下河委員、辻委員、豊嶋委員、芳我委員、藤田委員、松木委員（11名 会長を除き50音順）

（事務局）

木村健康福祉部長、前田健康福祉部次長、玉井長寿社会対策課長 外

### 4 議題

第9期香川県高齢者保健福祉計画骨子（案）について

### 5 審議内容等

#### ○専門分科会長選任

専門分科会長に笥委員が選出された。

#### ○職務代理者の指名

専門分科会長の職務代理者に久米川委員が指名された。

#### ○分科会の運営についての説明

（事務局）

本日の出席者は過半数に達しており、有効に成立していること

本日の会議は、県の「審議会等の会議の公開に関する指針」等に基づき、公開とすること

当会での審議内容は、後日、県のホームページに掲載すること

#### ○議題 第9期香川県高齢者保健福祉計画骨子（案）について

（事務局）

資料「第9期香川県高齢者保健福祉計画骨子（案）」に基づき説明

(委員)

前回の会議の際にもオーラルフレイル対策について、少し発言させていただいた。資料7ページ「1 生涯を通じた健康づくり」の「(1) 生活習慣の改善」に、「8020 運動やオーラルフレイル対策の推進」と記載していただき有り難く思う。

また、その際にオーラルフレイル対策は、介護予防にもつながるのだということも申し上げた。資料8ページ「2 介護予防の推進」の「(2) 要介護状態等になることの予防、軽減・悪化防止」の箇所においても、ロコモティブシンドロームやフレイル等に並んでオーラルフレイルの文言を記載していただけるか検討してほしい。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

この計画の中で、それぞれ次の9期に向けて目標値の設定がされると思うが、県の考える目標は県としての目標なのか、あるいは市町に対してのガイドライン的な目標なのか考え方を教えてほしい。

(事務局)

御指摘のとおり、県の目標として作成している。

(委員)

市町を拘束するようなものではないということか。市町でもそれぞれ目標を立てると思うが、それらと整合するように策定してほしい。

(事務局)

施設の整備目標などについては市町から提出いただいたデータを基に、積み上げを行い整合するように策定する。

(会長)

他に御意見がなければ分科会として、第9期の香川県高齢者保健福祉計画の骨子案について、この形で検討していくことを基本的に了承するというので、先ほど委員から御質問のあった部分については、引き続き御検討いただくことにしようと思うが、よろしいか。

(一同)

異議なし

(会長)

本日のメインのテーマは以上だが、せっかくの機会なので高齢者保健福祉計画や介護者に対する御意見等があれば、自由に御発言ください。

(委員)

前回欠席だったため、既に議論になっていたのであればお許しいただきたいが、骨子案の中で、資料9ページ「第2 人にやさしい地域づくり」の課題の一つ目の○に、「重層的支援体制整備事業」や「地域共生社会」の記載が特徴的な動きということで書かれていることは、地域福祉の立場として大変有り難いと感じている。

少し法的、概念的な話になるが、社会福祉法改正に当たり、大きくは地域共生社会を作るという理念が今回改正になり、包括的な支援体制を作るということが法律上義務づけられた。その上で、それを実行するための手段として重層的支援体制整備事業があり、社会福祉法人香川県社会福祉協議会も県から委託を受けて後方支援を行っている。地域共生社会があり、包括的な支援体制を作るということ、その手段として重層的支援体制整備事業が実施されることが法律に位置づけられたことから、具体的な記載に当たってはその点を少し加味した上で、御検討いただくと地域福祉を進める立場としては大変有り難いと考えている。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

今回目標は非常に広範に渡っていて、色々な改善策が提案されているので、是非実施していただき、課題が解決されると良いと思う。

地域を少し歩いて気になるのが、一人暮らしの方の孤立、孤独化が最近増えてきていることだ。ほとんど引きこもり状態となっており、他人と接する機会も少なく日常生活に支障をきたしている状態が散見されるので、その辺りについても配慮をお願いしたい。

もう一つは、空き家が増えてきている点だ。子供が県外へ出てしまい、施設に入るとほとんど家は手つかずという状態の家が散見されている。連絡を取って、木や草について刈ってもらおうよう指導しているが、なかなかお金がいる話には乗ってこない。(建物についても)倒れそうで危険な箇所も散見されるが、建て替えを支援する制度や空き家対策に対する補助的な制度がないものかと考えている。

民生委員などをさせていただきながら、ボランティアで草刈りなどを行っているが、本当に地域に人がいない。最近は特に70歳近くまで仕事に行くようになってきていることから、そういう手伝いをしてくれる人が少なくなっている。その辺りを何とか苦労しながらやっているわけだが、学校教育の中でボランティアを取り入れたり、会社の中で少しボランティア休暇のようなものの創設を検討できないだろうかと考えている。

もう一つは、介護保険料についてだ。高齢者になると、その負担が大きくなっている。算出方法を十分理解していないので教えてもらいたいが、介護保険はサービスによって、最終的に各地域の方で、月額料金が違っていると思う。その部分で、例えば高齢地域のところが高いというようなことがあるのか。地域間格差があって、例えば高齢者が多いところについては高く、そうでないところは違うとなると、この格差は縮まる見込みがない。介護保険料の格差の解消にも取り組んでいただきたいと考える。

(事務局)

介護保険料については、各市町の介護保険事業計画の期間である3年間のサービス見込量を踏まえて算定する形になっている。高齢者が多いと、サービス見込量が増加することから、高くなる傾向にあると思う。ただし、サービスの使い方は異なることから、高齢者が多いから全部同じように高いというわけではないと思う。

各市町において、必要なサービスの需要等を見込んだ上で算定がなされるものと理解している。計画策定をする中でヒアリング等を行い、状況をお聞きしながら必要な助言をさせていただければと思う。

(委員)

計画全体を見ると、継続している計画ということもあり、段階的に進化しているのが文言的には理解できる。しかし、実際のところ香川県は、全部を持ち上げていきたいという思いなのか、重点を置いているポイントあるいは香川県の特徴のようなものがあるなら教えてほしい。

見たところ、どの県の計画にも入っているのではないかと感じる内容だ。総論的になるのも仕方ないと思うが、市町の様々なデータなどを踏まえる中で、ここを県として頑張りたいと言う部分が見えるのであれば教えてほしいと思う。

(会長)

今の御意見は、県の総合計画とも絡む話だと思う。どこに力を入れるのかということは、この高齢者保健福祉計画の中にも反映されるべきではないか、そのような御意見ではないかと考える。この点については、これからの議論の中で深まっていくと思うが、今の時点で何か事務局から回答があればお願いします。

(事務局)

市町からのデータの準備もできていない中で、今の時点では一般的なものになるが、介護を必要とする高齢者が増加する中で、生産年齢人口が減っていくため、高齢者を支える人材の更なる確保や、介護を必要とする方の課題が複雑化・複合化していくため、そのニーズに 대응することができるような体制づくりが課題と考えており、それに 대응することができる施

策を作る必要がある。

(会長)

県の総合計画との関係では、「第2 人にやさしい地域づくり」が一番濃厚に連携してくと考えている。どちらかという、子供をなるべく産み育てやすい地域づくりを県として一層力を入れて行きたいという考えがある一方で、高齢者がどんどん増えるという実態がある。要介護者も増える中で、そのバランスが大切になってくるところだ。

どちらかという、若い人になるべく香川県で住んでいただき、できればそこで安心して子育てをしていただきたい、ということ非常に強く願って立案されつつある計画だと私自身は思っている。ここのバランスが大切になる。

先ほどの委員の御意見にもあったが、誰がフォロワーになってサポーターになっていくのか。高齢者も仕事の定年延長で、70歳になってもまだ仕事をされるということになると、ケアする人のマスが減ってしまうのではないかという懸念は確かにあると思う。

民間も含めた組織ぐるみで何らかのシステムを作らないと、ケアする人のマスは先細りではないかということになる。これは、この計画にいきなり盛り込むことは難しいが、民間も含め、みんなの問題として進めないといけない時期が来ているのかもしれない。

(委員)

みんなの問題という点では、今回は福祉の計画ということで、困った状態をどう改善するかというのがポイントであるが、地域保健の立場から「今起きている問題」を、どう予防していくかということが大事ではないか。

「みんな自身で」という自助が基盤と考えているが、ライフコースアプローチという考え方があり、その点から見ると環境の問題、本人が置かれている状況が重要な影響を与えていることも考慮すべきだろう。介護力不足というとすぐ介護の担い手をどう育てるかと考えがちだが、プロの支え手と困った人をつなげていくという現在のやり方には限界が来ていると考えている。

介護とは、基本的な生活の行動そのものだと考えている。私が実習などでお会いする高齢者の問題で、男性の家事能力が低いことから、奥様が倒れて入院したら、途端に自立度が下がってしまい、そこに本当にプロの手が必要なのかどうかという方まで、介護保険を必死に申請してプロの方のサポートを受けているのが現状であり、これは非常に効率が悪いと思っている。

この点についてどうすべきか、ということで色々な所で努力されているところだと思うが、まずはライフコースの視点から考えると、もう少し若い時期に男女が支え合っているような社会を作るといようなことが、実は日々の家事負担の軽減だけではなく将来の介護予防にもなるだろうし、介護の担い手養成に奨学金があることを否定はしないが、お金に困った方が入る場所が介護の学校ではなく、男性でも女性でも家事を得意とする方が、ちょ

っとした気づきかでお隣の方も支える、そのような結びつきはソーシャルキャピタルとも呼ばれるが、そのような視点で考えられないか。今すぐ解決策にはならなくても、私たち団塊ジュニア世代が、30年後、20年後に介護を使わなくてもよいようにするために、育ってきたところをどのようにしていくかという視点も大事だと考える。

資料2ページに体制図をつけていただいている。高齢者保健福祉計画の垣根を超える話になるが、今般、健康日本21（第三次）計画が始まろうとしている。当該計画においては、一生懸命に介護を必要としないで自立し、健康寿命を延ばすということが目標になっている。当該計画との連携についても認識していただくと、理想論かもしれないが思った次第だ。

（委員）

これまでの話を聞いていて、実際にこの計画を進めていく上で、大きな課題になるのは人材不足だと考えている。

それはいわゆるプロの人材や別の形であったとしても、特にプロの部分については、生産年齢人口が人口減少以上に減ってくるわけで、まして今は介護を希望する人が少ない中で、今の計画の書きぶりを見ると、例えば外国人人材について「今後、増加すると見込まれる外国人介護人材」という書き方になっている。今は、外国人ですら日本に目が向いていないとか、この円安の中で日本に行きたいという人は段々減っている状況にある。よほど工夫をする、あるいは、香川県なりの特徴を出していかなければ外国人人材も目を向けてくれないし、若い人も目を向けてはくれないだろう。その中でどのようにしてプロを一定数確保するか、そして、それ以外の形の支援をどのようにするのが、まさしく肝なのだろうと思った。

それともう一点思ったことだが、市町の推計の中で、整備の目標を整理していくというのがこの計画の一つの大きな要素だと思うが、他の委員からの御意見にもあったとおり、介護保険料が当初想定していたよりも大きく上がってきている中で、更に整備を進めれば当然保険料がまた上がることになる。この計画の中には、保険料の推移見込みは出てこないと理解しているがどうだろうか。しっかり整備すれば良いというだけの一方的な議論ではなく、本当は整備するに当たって、どれだけの介護保険料が必要になる、あるいは行政からの負担がこのように増加する見込みだということについても、少し触れていく必要があるのかなと考える。以上、2点御意見させていただく。

（会長）

先ほども、御意見があった介護保険料の負担の予測について、やはり、やっていくべき非常に貴重な御意見ではないかなと思う。高齢者保健福祉計画とは少し違うのかもしれないが、参考資料のところにはいずれ出てこないといけない話だろうと思う。

委員はどちらかと言うと、地域の介護を担うプロの部分の話であったかと思う。先程の委員の御意見にあった自助というか、まずは自分で予防にも努力し、逆に他の人をアマチュア

ながら助けるようなシステムも、当然必要になってくるが、ここにも意識の問題が相当ある。香川県の場合、地域包括ケアシステム学会を見ているところ出でられるプレーヤーはプロの人ばかりとなっている。医師でも、歯科医師でも、看護師でも、保健師でも、やはりみんなプロの人が意見交換をしているわけだが、重層的というのであればもっとそこにアマチュアというか、地域の住民で支える側に回ることができるような人も入ってくると、ようやく本当の重層的な感じになるかなと思う。

#### (委員)

先日、大学の方でも地域包括ケアに取り組むということで、呼び掛けて学生さんにも学会に参加していただいた。地域包括ケアというのは、地域でどうやって支え合うかということで、本日の資料で見ると、例えば老人クラブの促進やヤングケアラーが挙げられているが、もっとにぎわいづくりに力を入れていただきたいと考える。昔のお祭りのようなものをすれば、閉じこもった人も出てきやすいのではないかと。

委員からも、香川県の特色が無いじゃないかとの御意見があった。国から下りてきた計画をそのまましているので仕方ないと思うが、総合計画の方では介護のところ、ペットのことについて一生懸命話をさせていただき、池田知事も考えていただけたという話だった。高齢者がペットを失った時に、次のペットを飼うことができず、そのまま介護施設に入ることになってしまう。いつまでもペットを飼うことができるシステム作りが大切ではないかと考える。その辺をもう少し考えてほしい。

#### (会長)

楽しくやらなければ駄目だというのが、委員の御意見の骨子じゃないかと思う。どうしても県の計画を立てるとなると、楽しさのところまで話がいかないので、難しい部分ではあるが、確かにコミュニティが楽しくないとこの問題が解決していかないのだろう。ペットの問題については、最近の新聞にも出ていたが、例えば65歳ぐらいからペットを飼い始めて10年ぐらい経って飼えない状況になった時に、そのペットを引き継ぐシステムがあると聞いている。例えば1匹の犬が、次々と他の違う高齢者の方に引き継がれていくことになると、ペットの虐待もないし、可哀想なことにならないということで、それが孤立化を防ぐのであればそれも良いことだということだった。意外とそのような細やかな楽しい仕掛けづくりというものについても、一緒に考えていかなければ進んでいかないと考えている。

もう1点だけ意見を述べさせていただく。先ほどの家事能力の話ではないが、既に現象が出てきているものについて、その原因は20年ぐらい前に発生していることが非常に多い。よく私の専門の方で問題になる食生活に非常に関係する癌について、一体いつ頃の食事がいけなかったのかと言うと、案外20歳ぐらいの食生活が悪かったという話が多くあり、今ここで問題となっていることも、例えば先ほど、委員が指摘された男性を中心に家事をもう少しシェアリングする、そういったことを当たり前にするということについて、その影響を

考えると、もっともっと若い時にやらなければ駄目だということになる。現時点はそういうことが欠如した世代がずっと年齢を重ねてきているわけで、その点についてはそれで何とかしなければならないというのが、この計画なのだろうとは思いますが、もう一方では、やはり老人や介護者の話をする時には、若い人に対するケアの感覚に関する教育を行う必要があるということについても、例えば計画に盛り込まれると内容が膨らむのではないかと思う。初等中等教育の時から、そういう自分たちも高齢者になると決まっているのだから、シェアリングタスクということをもっとちゃんと教育する、というようなことを盛り込めば、冒頭に戻るが、委員がおっしゃられる香川県らしい特色のある計画になるのだろうと思う。

この辺りについては、これから皆さんで議論を深めながら進めていきたいと思う。今日のところは骨子ということで、これで進めたいと思う。たくさん御意見が出たことについて集約すると、恐らくそういうことになると思う。新しい池田知事も楽しい香川県にしたいと考えておられると思うので、そのようなテイストを少し入れたような計画に段々していくと、肉がついていくのではないかと思う。

(委員)

「いきいき」という表現に関して、高齢者施設の入所者を見ていると、「いきいき」と生きてほしいと思っても、認知症があつて寝たきりの方の「いきいき」というのは大変限られたもので、そこに「いきいき」を求めるのは困難があると考え。他の委員の方の発言にもあったとおり、対策はもっと前の段階からやるべきで、私自身も今の年から10年後には一般的に言う定年の年になる。その時にどのような場所に住みたいかと考えると、やはり人とのつながり、委員も言われたとおり人のつながりがあるところに住みたいと思う。

そうなった時に、今は体を動かす趣味をしているが、それもできなくなった時、また65歳、75歳ぐらいになる時にやはりつながりを持つとすれば、一つは仕事なのかなと思う。やることはそんなになく、趣味みたいなものも楽しければやれるのだろうが、やはり押し付けられてするものではないという中で、介護助手のような仕事は比較的良いのではないかと考えている。ただ、介護助手はなかなか応募される方もおらず、能力的にもそれほど戦力にならなくてもいいやと思いつながりながら入ってくる方が多いように感じている。しかし、もう少し楽しみの部分も含めて、そのような取組ができることになれば、香川県は意外に、横のつながりを会社のようなところで持ちながら生活して行けるから、ずっと住めて楽しいというようにつながらないかなと考えている。

申し上げたかったのは80歳、90歳を超えて、要介護度4、5ぐらいの方で認知症がある方にまで「いきいき」という表現を用いることについては違うと考えており、用いるのであれば、よく新聞などにも取り上げられるように介護度が1や要支援の方、MC I（軽度認知症）がちょっと進行したぐらいの認知症の方を対象にすべきと考える。認知症のレベルによって状況が異なる中で、あまり重度になってしまうと、欲求や自分で達成できることが少ないのではないかと思い、意見させていただいた。



(会長)

要するに、誰もが介護を受ける立場になるのは、いずれはそうなると思う中で、何とかそのぎりぎりまで介護されずに、介護する側の立場に立って、アマチュアからセミプロのような形で介護に取り組むイメージを、委員が話されたと思う。ある日から自分が介護される側になっても良いのだと思うが、そのような社会ができればということだろうと思う。

理想に近づけることはなかなか難しいが、今考えている介護に携わるようなプロの人だけでは、もう回らないということがはっきりしている中で、じゃあどうするかということになるとやはり、アマチュアと思われる人にどれだけ積極的に参加いただいて、それが生きがいにつながるように持っていくのかということだろうと思う。

今日皆さんが同じようなことを考えているのだということが良く分かった。これは本当に貴重なことだったと思う。本日の話を基に、次回からもう少し議論が深められたらと思う。

(委員)

今の皆様の話に刺激を受け、意見させていただく。ケアをする立場から言うと、金銭的關係、仕事だからではなく愛情を持ってケアを行いたいと考える。しかしそれは、相手が大切な人だと思えるということであり、そのような関係を他人と作るのは困難であることもある。

先ほど、会長の話にもあったが、人のつながるきっかけ、委員のおっしゃられた「にぎわい」もそうだが、そういう明るい活動が苦手な方もいる。

私が香川県に来て感じたことだが、香川県では防災意識の高い方を上手に育成されているように感じている。防災士の方のほとんどは高齢者であり、防災士の養成講座に行くと、ここでつながった人たちの健康増進、健康寿命が延びているのではないかと強く感じる。防災となると他人事にはならないことから、もしかすると「にぎわい」と言ってもなかなかお祭りに出てこられない人も、防災の事になると我が事として興味、関心を持つ方も出てくるのではないかと。防災士の方が育てている香川県においては、防災士の方に地域のコーディネーターのような、人とのつながりを作るキーパーソンになってもらうことで、そこからソーシャルキャピタルが生まれて、さっきまで頑張っていた人が、少し調子が悪くなった時に、どうしたのだろう、助けようかというような動きができやすい土壌が育ちつつあるのではないかと思う。

(会長)

防災のことは、私も頭に浮かんでいた。香川県は確かに熱心に取り組んでいる。

自慢するわけではないが、香川大学の学生もサークル活動に非常に熱心だ。年代層も幅広く、防災に関しては、リテラシーがある程度ある人達が集まってきている県だと思うので、

それと同じことがこの介護でも起こればよいということだと思う。

先ほど、委員が大学生の話がされたが、例えば愛媛県の豪雨災害があつて、その後、香川大学の防災士の学生グループは毎年現地に行っている。支援活動は災害の起こった1、2年は皆よく覚えているが、10何年経ってきて、でもまだ来てくれるのかということで、相当地元の人たちとの人間的な関係が深くなっているようだ。学生は年代が変わっていくので、先輩から後輩に引き継いでいくのだが、その後輩たちは恐らく、その豪雨災害自体も知らない。でも、行くとそこで話を聞いて、関係が深まってということがずっと続いている。同じようなことが、この問題でもできるとかなり違ってくるのだろうと確かに思う。

先ほどのアマチュアの話になるが、重層的なケアをするときのプレーヤーとして、その辺りの人たちを、もう少し認識した方がうまくいく可能性が高いのではないかと同じように思う。

それでは、ほかに御意見がないようなので、以上をもって第2回の香川県社会福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会を終了する。